

沖縄「辺野古新基地」建設の中止を求める要望書

沖縄にある米軍基地の大部分は、米軍占領下で造られたものです。米軍基地の集中に伴い、米軍兵による刑事犯罪やヘリコプターの墜落事故なども発生しており、沖縄県民の生活・安全が脅かされています。

このような状況下で、沖縄県民はキャンプシュワブ辺野古崎地区及びこれに隣接する水域への新基地建設について、次の理由により反対しています。

- 1 沖縄にとって命の源ともいえる海を埋め立てることは認められないこと。
- 2 米軍基地は日本の防衛のためのものであり、その負担は全国で平等に負うべきである。沖縄だけへの押し付けは差別である。
- 3 辺野古新基地は、強襲揚陸艦の係船機能付き護岸や弾薬庫などを備えた新基地であって、普天間飛行場の代替ではない。

沖縄県民の反対を押し切ったの新基地建設は、地方自治・民主主義の精神にも反するものです。

よって、文京区議会は政府に対し、辺野古新基地建設の中止を求めます。

平成 30 年 7 月 4 日

文京区議会議長 名取 顕一

内閣総理大臣 安倍 晋三 様
外務大臣 河野 太郎 様
防衛大臣 小野寺 五典 様